

■ビオトープ・サロン ビオトープネットワーク ～学校から地域への展開～

今号は酒井孟会員の活動報告です。渋野小学校で実施した総合学習(全4回)の第1回総合学習(2014年5月20日)、第2回総合学習(2014年6月30日)の内容について紹介します。

この総合学習は2013年11月に行った活動(佐那河内いきものふれあいの里元センター長の田代優秋氏指導)において、小学校近くの用水で海と行き来するミナミテナガエビが見つかり、「用水・川・海の連続性について子供達に伝えたい。」との校長先生の強い思いから始まったものです。

その後、田代氏の後継として酒井孟会員が引き継ぎ、活動を継続的に支援しています。学校から用水路へ、そして地域へと、今後の展開が期待されます。ビオトープネットワークには人のネットワークも欠かせませんね。(編集局)

【渋野小学校 総合学習】

記者：酒井孟(会員)

■第1回総合学習について

第1回総合学習では、小学校前の用水で生物調査を行いました。ミナミテナガエビを捕まえることはできませんでしたが、タイリクバラタナゴ、ヌマムツ、ドンコ、ミナミヌマエビ等の生物を捕まえました。

用水での捕獲後は小学校に戻り、班ごとに捕まえた生物の名前を調べ、授業の最後にはどのような生物を捕獲できたかを班ごとに発表しました。



写真-1 用水の調査風景



写真-2 捕獲した生物の同定の様子

■第2回総合学習について

第2回総合学習では、第1回総合学習で捕獲した生物についての生態等について授業を実施しました。また、授業後に用水に仕掛ける仕掛けを各自一つずつ作成しました。

総合学習前半の授業では、第1回総合学習で捕獲した生物の名前の確認及び生息場等の生態について講義を行い、後半は、用水への仕掛けを徳島大学の学生による解説を基に各自持参したペットボトルを使って製作しました。



写真-3 授業風景



写真-4 仕掛けの製作風景

■今後の活動について

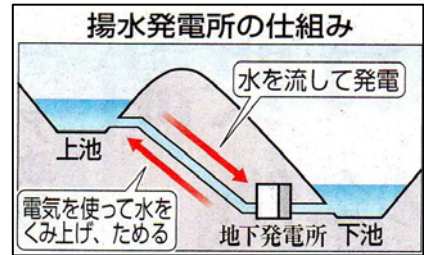
第3回総合学習では用水の調査を第1回総合学習と同様の地点で実施し、生物の種類や捕獲数が季節による違いを調べます。最終の第4回総合学習では、年間を通した総合学習の総括を行う予定です。

■ビオトープ・サロン マスメディアからの話題 ～話題にこと欠きませんが!？～

最近の紙面は、環境関連の記事が連日目に止まりました。そこで、主な見出しを列挙してみました。(編集部)

【9月から今日までの見出し(徳島新聞)】

〔太平洋クロマグロ親魚減少-未成魚漁獲半減へ論戦(9/1)〕〔危機遺産登録の恐れ(グレートバリアリーフ)-環境汚染でサンゴ半減(9/2)〕〔ウナギ養殖制限-消えぬ絶滅の恐れ(9/18)〕〔再生エネ-固定買い取り抜本改定へ(9/27)〕〔生物保全「進展不十分」-国際目標達成可能3項目のみ(10/7)〕〔再生エネに競争原理を-買い取り制度見直し-低コスト事業者優先(10/15)〕〔CO₂濃度急増2100年までに-海の酸性化損失年107兆円(10/15)〕〔ミツバチ保護対策急務-世界的に生息状況悪化(10/16)〕〔今世紀末気温4.8度上昇-IPCC報告書案が判明(10/16)〕〔再生エネ買い取り-見通し甘く制度破綻(10/16)〕〔再生可能エネ-買い取り見直し開始(10/16)〕〔希少種オオタカ生息数回復-指定解除めぐり対立(10/29)〕〔再生エネ買い取り-半年ごとに価格見直し-太陽光引き下げへ(10/30)〕〔余剰再生エネ「蓄電」効果-揚水発電利用率3%(11/2)〕



太陽光発電など再生可能エネルギーが余った時に水を汲み上げ、蓄電と同様の機能を有す。未利用施設を活用することで再生エネルギー受入増が期待される。

■みんなの“たからもの” 私たちの暮らしに共存する身近な生きものたち

チョウは種によって幼虫の餌になる植物(食草・食樹)が明確に違いますね。アゲハは柑橘類、キチョウはマメ科植物、ヤマトシジミはカタハミ、ベニシジミはギンギン、オオムラサキはエノキなど。共に生きる知恵?(編集部)



【我が家の小さな訪問者】

寄稿：KMさん

9月23日 ツマグロヒョウモンがスミレに産卵にやってきました。

庭の草むしりでは、芝生の中に点在する可憐な花を楽しむために草丈の低い草は適度に残しています。

ところが、キチョウやヤマトシジミが産卵にやってくる庭になりました。

みかんの木にはアゲハやクロアゲハ、畑のキャベツにモンシロチョウ、パセリにはキアゲハがやってきます。畑にはやってきて欲しくないの白いネットをかぶせています。

ツマグロヒョウモンの幼虫はちょっとグロテスクですが、羽化するまでは、我慢して見守っています。

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより **無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集部)

【ビオトープ論の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問71：ビオトープの定義に関する次の文のうち、正しいものはどれですか。

1. ビオトープとは、他とその周囲の湿生植物群落によって構成される空間をいう。
2. ビオトープとは、都市内における野生生物とのふれあい空間をいう。
3. 生産活動が行われている水田や植林地も、ビオトープといえる。
4. 砂丘は野生生物がほとんどいないので、ビオトープとはいえない。
5. 洞窟のような特殊な環境は、ビオトープとはいえない。

■前号070の正答【3】

①生産者→草食動物→肉食動物といったひとつのつながりの**捕食・被食関係**を「食物連鎖」といい、階層的に表したものは「生態系ピラミッド」と呼ばれています。②生産者に対して、草食動物や肉食動物のことを「消費者」といい、**生産者は植物**を指します。③生産者が捕捉・合成した**エネルギー・有機物**は、捕食・被食関係を通じて、草食動物→肉食動物へと受け渡されていく。この受け渡しの各段階を「食物網」といいます。④**消費量**は、草食動物の方が、一般的に、肉食動物よりも大きい。ただし、個体で考えると肉食動物の方がはるかに大きいと言えます。牛の場合、**10kgの穀物を消費して1kgの肉**を生産します。それを食す肉食動物は10倍の消費量となります。⑤生態系で最も大きな生物量を占めるのは一般的に生産者で、**次いで一次消費者…高次消費者**の順になります。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集部 [E-mail: kanv@nifty.com URL: http://biotopetokushima.yu-yake.com]